

3/15
祇園寺にて

茨城新聞掲載より

市川勢の軌跡

「諸生派の真実を」付

茨城プレスセンター株式会社

社長 市村眞一

(水戸支社・沼田安広)



幕末・明治維新時、水戸藩では「天狗」と「諸生」両派が激しい抗争を繰り広げ、最終的に天狗派の天下となった。諸生派は敗者ゆえに、その歴史に光が当てられることが少なかったが、殉難から来年で140年を迎える中、諸生派への関心が高まっている。子孫たちの活動が活発化。諸生派の人々を

市川勢の軌跡に反響

天狗派は尊皇攘夷派で、新政府軍とともに天狗月に八日市場で壊滅した。落の藩士や領民らが主派の生き残った志士らた。

十月に「水戸殉難者恩光碑保存会」（大森信英会長）が設立された。

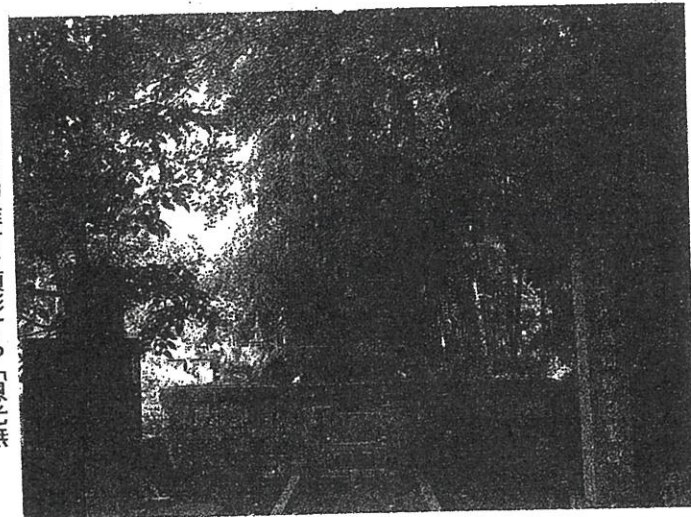
諸生派は保守門閥の重臣や領民を主体とした佐幕派。諸生派は、元治元（一八六四）年の天狗派の筑波山挙兵の後、藩政の実権を握った。しかし、幕府が倒れ、

が戻つてくると、市川勢約五百人が慶応四（一八六八）年三月に水戸を脱出し、北越、会津、水戸、八日市場の各地で新政府軍や水戸藩の軍勢と戦い、同（明治元）年十

諸生派の殉難者を顕彰する「恩光無辺碑」が祇園寺境内にある。一九三四年建立された。天狗派の室田義文が「天狗諸生、主義は異なっても、その言に対する忠誠心は

地での現地懸望を行、
いくほか、殉難者の子孫
の多くが所在不明のた
め、一人でも多く探し出
す調査も続ける。
また、関係者が市川
三左衛門の靈魂碑の建立
計画を進めている。

諸生派の真実を



諸生派の殉難者を顕彰する「恩光無
辺碑」川水戸市八幡町の祇園寺境内

殉難から来年で140年

その言に対する忠誠心に計画を進めている。

わく。残念なことに、諸

市川勢の軌跡

▷ 1 ◁

明治元（一八六八）天狗諸生の争いとは、「水藩は久しい前より王攘夷に共鳴し、藩主を

CAMPUS PLACES OF MILO

争乱の舞台となった水戸城にあった三階櫓（水戸市立博物館提供）

天狗党と諸生派

学問上の対立から抗争に

諸生派が壊滅して間もなく百四十年になる。このままでは彼らの行動は歴史の闇に消えてしまうように思える。そうならないうちが彼らの顛末に光を当て、維新時の水戸藩の知られざる一面を明らかにしてみたい。

速記録にある。水戸を脱 答えている。
 走した諸生派（市川勢） 当事者がこのような証

諸生派は、家老市川三左衛門を中心としたグループなので市川勢と呼ぶ。（藤田幽谷）の対立にある。天狗諸生の争いの源流といわれる。学問上の対

立は、やがて政治と關係し、世継ぎ問題や藩政改革をめぐる対立に發展する。藩内抗争は權力闘争となり、一層深刻化し、天狗党の筑波山拳兵を機に、一気に燃え広がる。
(毎週木曜日掲載)

社長・市村真一

た。

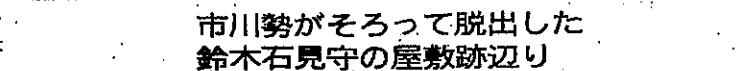
U

12

4

て江戸藩邸に戻ると、
 狗党が復権。諸生派
 には暗殺される者も

人以上の集團が会津を
指して脱走する。
(毎週木曜日掲載)



はは

下野（常陸太田市）に到着する。この日の朝、黒崎家に入入りの者が来て、兄の命令で残った十七歳の弟の雄二に「坊さんも召し捕られる厳しだから、すぐに逃げなさい」と真剣に説得。雄二は迷うが、意見に従い家僕を連れて野州に逃げる。

L

U

入国は

以降の黒崎雄二の動
調べています。茨城
スセントターの市村
9(240) 1888
ファクス029()
0) 1881まで情
お願します。

明治元（一八六八）年以降の黒崎雄二の動向を調べています。茨城プレスセンターの市村☎029（240）1880、ファクス029（240）1881まで情報を願います。

市川勢が通過した棚倉に残る棚倉城（亀ヶ城）跡

市川勢の軌跡

▷ 4 ◁

市川勢は、三月十七日があると判断したよう
たつと、右手に猪苗代湖から二日間、会津藩の関だ。水戸藩の内部抗争を
見ながら、会津城下を門がある勢至堂で足止め知っていたので、かわ
避けるようにして城下かされた。宿泊したのは藩りたくないとの考えもあ
三里ほど離れた会津坂境にある長沼陣屋。ここ、つたと思われる。そこ
下に到着した。

は、本家が水戸藩で、会津藩は城内に入る宿舎に着くと、あとを藩（石岡）と兄弟関係にすることは認めないが、領内追つて会津藩の重臣佐川ある。幕末維新時は水戸通過を認める旨の回答を官兵衛と鈴木丹下がやつ

藩と行動を共にしていた
というから、このときの
対応は難しかったろう。

会津藩の関門の役人は、市川勢の会津城に入りたいとの申し出を受けて、藩庁に馬を飛ばし、

回答を求めた。会津藩は市川勢に届けた。

當時、奥羽鎮撫使や東北諸藩との間で和平交渉を行おうとしていたので、市川勢を受け入れては交渉先に誤解を与える懸念

の日、水戸城では鈴木縫「困る」と訴えた。市川市川は芳賀三左衛門、

入城拒否

変名受諾、会津領を通過

てきた。佐川は、会津藩は、会津藩に迷惑は掛けられぬことをわびるとともに、「今後は全員の名前を変えてほしい」とし、部だけ変名したいとし、着いたが、病氣はさらに（毎週木曜日掲載）

(每週木曜日掲載)



市川勢の軌跡

► 5 ◄

鈴木縫殿率いる市川勢事情は承知しており、市川らをかくまう考えがな
追討軍は、三月二十三日
に小中宿（常陸太田市）
を通過し、二十六日には
白河に着いた。追討軍の
留まるはずはないと答え
る。

藩一致して宗家のために 久元（一八六一）年と久木とは七年の差がある。御尽力をなさるべきはずなり。御藩には智謀すぐれたる方々も多きことなれば何とか調和の道をたれども、久木・中村のど

参謀格の長谷川作十郎とこのやりとりは水戸藩野村彝之介、久木直次郎史料に掲載されている。は、先行して会津城に入そこに載っていない話が

て拳国一致して御尽力願ひながらが間違っているの
いたきものなりといわれだうか。興味は尽きな
し時は自分も少々閉口せ。

ることができた。長谷川の知人、手代木直右衛門がいたからだ。二人は京だ。

しなり」 さて、秋月の「苦言」

「その時秋月悌次郎に
会津藩―

の足跡を追った中村彰彦 公文書だ。藩内の抗争を

二人と両藩の幹部は市川勢の扱いを協議。長谷川は、会津藩で市川勢を処分のうえ引き渡してく

世間の見方、

秋
月
が

れるか、追討軍に領内での追撃を許可するかを問う。会津藩側は水戸藩の

面会したる。秋月がい著「落花は枝に還らずと外
ふ、御落ではいつまで兄も」には、幕末の水戸藩記
弟喧嘩しておいでなざる士との交流が描かれてい

部に批判されたことを
録しないこともあるだ
う。また、そのとき書

会津藩士の苦言

世間の見方、秋月が代弁

面会したる。秋月がい著「落花は枝に還らずと外
ふ、御落ではいつまで兄も」には、幕末の水戸藩記
弟喧嘩しておいでなざる士との交流が描かれてい

部に批判されたことを
録しないこともあるだ
う。また、そのとき書

けない話をのちに久木が語ったとしても不思議ではない。秋月の意見は、

代弁したともいえようか。
(毎週木曜日掲載)

(每週木曜日掲載)



会津城敷地内に建てられた秋月の碑

市川勢の軌跡

▷6◁

会津城で市川追討の協り、藩内の混乱を収める力を得られなかった長谷川らは、手代木の見送りを受けて退去。ただちに慶應の意に反し、藩内に勇躍江戸へ向かった。金次郎は復讐に燃え、家老の山野辺氏を除く同士百三十人とも石見守は、藩内では付家

は若狭小浜藩に幽閉さ川勢ともに水戸から太田れ、王政復古で四年ぶりまで脱走した。その後、に自由の身となった。慶分かれて江戸に逃げたが応四(一八六八)年一月捕らえられ、赤沼の獄にのこ。そして、朝廷があった。幼児二人も処刑の勅命を賜り、処刑を免獄中で絶食して死んだ。金次郎は復讐に燃え、家老の山野辺氏を除く同士百三十人とも石見守は、藩内では付家

鈴木石見守の処刑

追討軍は急ぎ水戸へ向かい、倒幕軍が江戸城に入城した同じ日の四月十一日に帰陣したが、慶應は既に四月五日に亡くなっていた。三十七歳だった。江戸から水戸に入っ二週間ほどのことであ

金次郎ら、門閥派に復讐

処刑された。金次郎は十三日には城代家老鈴木戸を出た慶喜は四月十五第七子の慶喜は、子とも七歳と若かったため、遠石見守が処刑された。日、藩校弘道館に入り、のころ弘道館で学んでいた。鈴木石見守は三月に市謹慎する。前藩主齊昭のる。その後、幕命により



水戸市の薬王院にある鈴木石見守家の墓所

市川勢の軌跡

▷7◁

越後にあって会津藩が進駐している水原で九日間を過ごした市川勢は四月八日、新潟に入る。新潟港は東北地方屈指の物流基地で、軍事的にも重要な場所。港を管理するのは新潟奉行所だが、旧幕府と新政府との間で対応に苦慮していた。

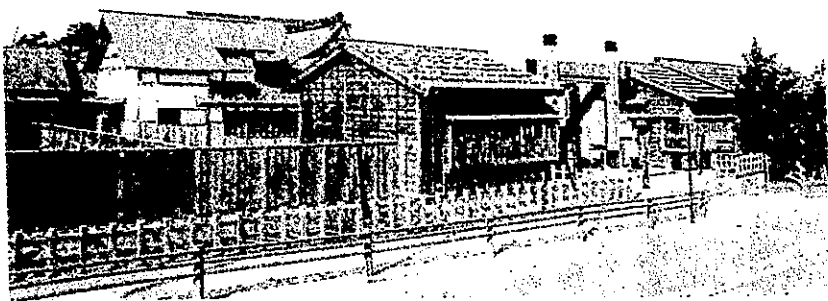
市川勢が入る一週間前には、旧幕府歩兵隊から脱走した衝鋒隊約七百人が乗り込んだ。彼らは資金不足のため、奉行所に越後諸藩の代表を集めては資金提供を強要。隊員は町内で武器を持って町民を脅していた。そこに市川勢約六百人が乗り込んだから、町民の恐怖心はさらに募ったようだ。

新潟入り

軍資金求め佐渡へ渡る

入り、将軍慶喜は水戸に渡り、大島圭介率いる

月前に会津藩は自ら同様の行動をとり、失敗して市川勢ならは成功すると思っただろう



軍資金を求めて乗り込んだ佐渡奉行所(復元)

か。結果は同じだった。佐渡奉行所を調べても金塊はなく、多数の天保銭が蔵に残っていただけだった。(毎週木曜掲載)

一橋家を継ぎ、幕末動乱の中で将軍となる。幕府倒壊後は朝廷に恭順、家名存続を願う以外、国政にも藩政にも意見するとはなかった。(毎週木曜掲載)

市川勢の軌跡

▷ 8 ◁

佐渡に渡った第一隊はだ。挙動不審な様子に、佐渡奉行所からの軍資金・伊藤隊は男を宿舎に連行獲得に失敗したが、しばした。

らく佐渡に滞在することとなつた。ほかの市川勢は寺泊にとどまる部隊と出雲崎に出る部隊に分かれた。四月が過ぎ、うるう四月。現在なら五月下旬に当たり、初夏の陽気だ。出雲崎の宿屋、大崎屋には伊藤辰之助の一隊が泊まっていた。

名を富山弥兵衛といふ。薩摩藩出身で、慶応元年（一八六五）年、新選組参謀の伊東甲子太郎（かすみがうちら市中志筑出身）の紹介で新選組に入隊する。その後、伊東が脱隊し、御陵衛士にな

うるう四月一日、大崎屋の前で事件が起きた。

博徒のような格好をした男が馬から降りたが、その姿が博徒に似つかわし

薩摩の間者

富山 弥兵衛、越後で探索

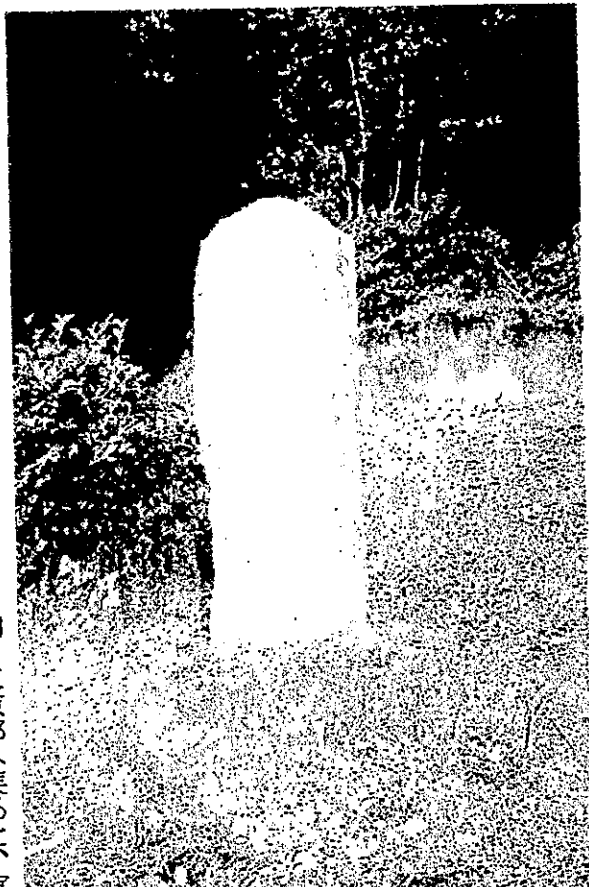
ると行動を共にする。十
数人の集団だが、宿舎と
した高台寺の名を取り、
高台寺党と後に呼ばれ

慶応四年一月の鳥羽伏

征軍に従い江戸へ行く。

に起つて情執計算した方

金及不甲



教念寺の片隅に立つ富山弥兵衛の碑

の田舎に着いたところを捕まえた。

拷問を受け、大崎屋に近い掠潭屋という宿屋に連行された富山は、二階の柱に縛られた。翌朝、縄を解き、逃げ出すが、伊藤隊に見つかり、追われる。その姿を町の人々が目撃している。必死で逃げ、宿から東に二里ほど離れた吉水村の教念寺近くまで来たところで道がなくなり、追っ手やいはを交わす。

四月に京都へ戻ると、官軍参謀の黒田了介に越後探索を命じられる。新選

伊藤隊は二十数人。富山はかなりの遣い手と評判だが、田の中で足をと

市川勢の軌跡

▷ 9 ◁

市川勢の伊藤辰之助隊が薩摩藩の間者を惨殺した翌日のうるう四月三日、寺泊から市川三左衛門、大森弥三左衛門らが出雲崎にやって来た。

目的は新政府軍と対決した。篠原は即答できない
 する際の陣地とするためという。

の出雲崎代官所の占拠。市川らは寺泊に戻る。このとき、代官所には先が、六日、再び二百人を客がいた。衝鋒隊だ。引き連れて出雲崎に入

新瀉を長岡藩家老の河る。町内の宿屋には市井継之助に追われた彼ら川、大森、朝比奈弥太郎

市川らは代官所の留守

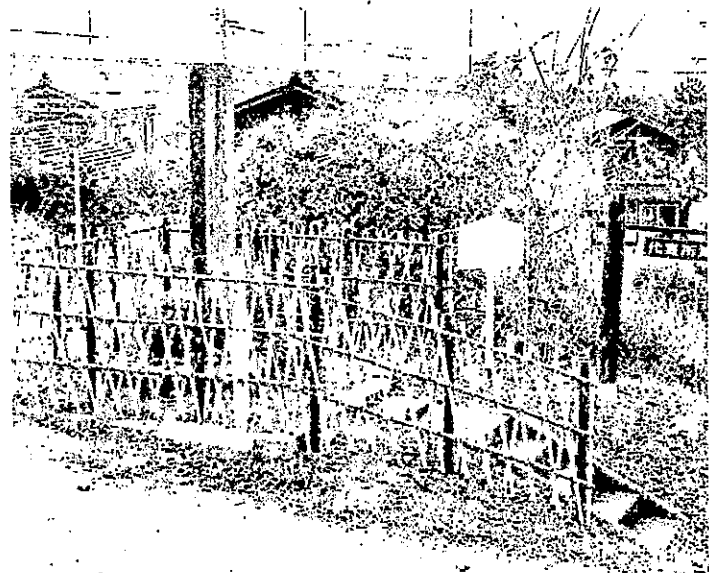
の三人の隊長の名前を記した宿札が張り出され

篠原との交渉が進まな

いことに腹を立てた市川なることもあった。それは七日、自の兵を率いては、故郷水戸から伝わ

新政府軍との戦闘準備

出雲崎代官所を占拠



市川勢が占拠した出雲崎
代官所の跡

てくる同志や家族に対する弾圧だ。

代官所に乗り込み、「今佐藤図書、寛助太夫ら幹後、出雲崎陣屋は水戸方部の連名で、会津藩に嘆が警護する」と一方的に願書を提出した。

その中で「万一城に向つて発砲するようでは不

篠原は承服せず、議論調法の筋と心得、水戸を
は続いた。そこへ会津藩
士有賀圓次郎が来て、水
戸は理不尽であり、会津
が警護すると主張。市川
は応ぜず、結局、市川勢
に一任され、篠原は泣く
泣く明け渡した。

遠く越後にあって、同志や家族を思う心情が伝わってくる文書だ。

(每週木曜日掲載)

は七日、自ら兵を率いては、故郷水戸から伝わつ

市川勢の軌跡

▷10◁

幕末維新時は激動の時、活動も活発だったよう代であり、多くの情報があった。情報伝達法は口伝や文書。確かな情報を得ることが、立場によつては生死を分けることもあった。

上野国連取村(群馬県伊勢崎市)の地方役人、森村新蔵が残した「享和以来新聞記」には、天狗党の顛末が記録されている。森村は知人のネットワークから情報収集し、天狗党の動向を記録した。江戸には、情報を集めては諸大名に売る商売を行っていた者もいる。一方、ひそかに情報収集を行う間者(スパイ)の載っている。

水戸藩間者

周辺を探索、足取り報告

部は、ほかの者とうろたいは滞留になるだろう。四月十一日、水戸藩にこの風聞、十七日佐渡の陣屋より兩人ほど寺泊にきて市川勢の足取りを追った内容だ。水戸市、談した中、その一部が料その他道中の費用だが、勢至堂より水原辺り

市川三左衛門等四百までは会津藩が代わって人余、各自槍、鉄砲を持支助たらしい、新潟か参、会津領勢至堂へ一同らは市川方が出した(中泊り(中略)(四月)八略)。道中筋は穩便に通日新潟に至り十四日まで行した由」

滞留、会津藩の西郷源五郎と談合、千両ほど借用した由、同十六日弥彦、寺泊に泊り、一部は出雲崎泊りで、十七日佐渡へ迂回したと書いている。探索方の磯部秀之助、磯渡る計画のところ七日ぐ、市川勢は水戸を

市川勢の動きを記した水戸藩脱奸踪跡探偵書

明治元年閏四月十一日

脱奸踪跡探偵書

辰巳四月十一日 脱奸踪跡探偵書

市川三左衛門等四百までは会津藩が代わって人余、各自槍、鉄砲を持支助たらしい、新潟か参、会津領勢至堂へ一同らは市川方が出した(中泊り(中略)(四月)八略)。道中筋は穩便に通日新潟に至り十四日まで行した由」

滞留、会津藩の西郷源五郎と談合、千両ほど借用した由、同十六日弥彦、寺泊に泊り、一部は出雲崎泊りで、十七日佐渡へ迂回したと書いている。探索方の磯部秀之助、磯渡る計画のところ七日ぐ、市川勢は水戸を

市川勢の動きを記した水戸藩脱奸踪跡探偵書

明治元年閏四月十一日

脱奸踪跡探偵書

辰巳四月十一日 脱奸踪跡探偵書

市川勢の軌跡

▷11◁

閏四月十一日、東北各藩の代表が白石に集い、会津藩に寛大な処置を願う嘆願書に署名。翌日、仙台・米沢両藩主は岩沼に出陣していた奥羽鎮撫軍の九条総督に嘆願書を手渡した。

同十七日、総督は嘆願を却下。これに対し、仙台・米沢両藩主は十九日、奥羽鎮撫軍の指示で手配した会津征伐の兵を引き揚げる旨を総督に届ける。さらに、二十日には鎮撫軍参謀の世良修蔵を仙台・福島藩士が暗殺。和平交渉は決裂した。

新政府軍と戦闘

椎谷、宮川で初の戦死者

一方、越後高田では十ら進出した薩摩、長州、請。椎谷の南方半里ほどの宮川には薩長軍がい、この戦いの直前の五月四日、寺泊で病臥にあっ

た市川勢の幹部の一人だ。寺泊の法福寺の過去家老の佐藤図書が息を引帳に記載されている。(毎週木曜日掲載)



家老佐藤図書が眠る寺泊の法福寺

市川勢の軌跡

▷12◁

市川勢は、五月六日の
 権谷・宮川での新政府軍
 との戦いで初めて死傷者
 を出した。これに前後し
 て、佐渡に渡っていた箕
 助太夫の部隊を呼び戻
 す。

箕助が加わり、市川勢
 は戦況を整えたとい
 えよう。

権谷方面で敗退した市
 川勢は、五月十四日の灰
 爪・市の坪の戦いでも犠
 牲者を出す。戦死者六十
 五人、負傷者九人。戦死
 者のなかには箕の弟平三
 郎や郡奉行岡野七郎、
 大森弥三左衛門の奥弟で
 結城眞寿の名跡を継いだ
 小姓頭取結城七之介のほ
 か神官、郷医など農村の
 有志なども。

の本隊は、内郷が破られ 市川勢が多数死傷した灰
 背後を断たれる恐れが生 爪に達つ慰霊碑
 じたので、急に引き上げ
 石地から出雲崎に退却し うて汗水泥になって這々
 ます。一方別山口の水戸 の體で逃げ来るもの、ま
 勢もいよいよ負戦とな るで百鬼夜行の有様であ
 り、市の坪正法寺へ火を りました。

この日の戦況の様子を
 出雲崎夜話は次のように
 記録している。
 「五つ頃（八時）から
 雨が晴れ曇天となりまし
 た。官軍はズンズン進ん
 で別山口を守っている水
 戸勢へ間違から不意に攻
 撃を加えました。水戸勢
 は刈羽と三島の分水嶺を
 固め、此所を破られては
 大変だと必死の防戦につ
 る。放ち総崩れに陥れて脇野 恐怖と混乱のうちに五
 町、出雲崎の両方面へ潰 月十四日は暮れていく。
 走します。正法寺は炎焼 日没後、水戸勢は長らく
 燃えがって隣家へ延焼し 厄介をかけた此町へ、も
 撃を加えました。水戸勢 大勢をついに油紙に包んで
 は刈羽と三島の分水嶺を 無辜の町人は甚だ気の毒
 固め、此所を破られては 形式的に陣屋の前で焚火
 大変だと必死の防戦につ を串刺しにして罵りしげ をしたのみで退却したと

灰爪・市の坪の戦い

激闘で65人が死亡、退却

とめています。
 権谷に陣取っていた水戸
 先途に防戦していた水戸
 来るもあり、戦友を背負
 物も残さなかった悲惨か
 ら思えば仕合せであった
 と書はねはなりません」
 市川勢は、十四日から
 十五日にかけて出雲崎から
 寺泊、弥彦に退却する。
 十五日は、反政府軍の拠
 点長岡城が陥落。江戸で
 は上野において彰義隊が
 討伐された。
 （毎週木曜日掲載）



市川勢の軌跡

▷13◁

水戸勢は五月十四日の
 権谷・灰爪の戦いで大敗
 を喫し、寺泊に後退。十
 五日には弥彦まで撤退
 する。このため海岸線を
 守る部隊がいなくなっ
 た。

そこで、新潟から寺泊
 近くまで支援に来ていた
 会津藩の佐藤織之進は、
 手勢を率いて寺泊に進
 出。佐藤の下には指揮者
 を失った旧幕府軍の遊撃
 隊が加わり、名を新遊撃
 隊とした。水戸の伊藤辰
 之助隊もこれに参加し、
 以後、新遊撃隊と行動を
 共にする。

一方、長岡城を新政府
 軍に奪われた長岡藩と列
 藩同盟は五月十九日、加
 して戦っているには、

茂に集い、対策を協議す
 る。長岡、会津、桑名の
 各藩と旧幕府軍に加えて
 市川勢も参加した。二十
 四日には庄内藩も駆けつ
 け、持ち場を決定した。
 ところが、同日、寺泊港
 付近の海上で旧幕府軍の
 順導丸が薩長の軍艦に砲
 撃され爆沈したことか
 ら、市川勢と会津藩は救
 たなかで、軍事的に劣勢
 が容易に兵を動かすべき
 解している」。

列藩同盟が成立し、新
 政府軍との戦争に突入し
 を送るべきか協議。大方
 が容易に兵を動かすべき
 解している」。

加茂周辺の攻防

会津藩と連携して戦う

援に弥彦まで出向く。
 会津藩と市川勢が連携
 して戦っているには、

な会津藩にとって市川勢
 ではないという意見だった
 は大切な戦闘要員だ。引
 が、一部は与板に向かっ
 た。俠客松宮雄次郎の率
 新之助がいた。島崎とい



市川勢は弥彦神社（写真）
 のすぐそばに陣を敷いた

ついに寺泊まで来る。新
 政府軍の軍山、高田藩兵
 と遭遇。斉藤らは突撃
 し、撃破する。斉藤は、
 高田藩の銃隊指揮役伊藤
 光次郎を斬殺した。
 （毎週木曜日掲載）

市川勢の軌跡

▷14◁

「市川（三左衛門）等も政治的口を出さなかつた。暴は暴なれども武田の凶だが、藩内の混乱を知らず、旧藩府目付の岡田等伝えていた。

五月二十八日、江戸から中や自宅前で殺害され、武田金次郎の一隊百五十人、そのなかに親子が二組あり、十人が水戸に到着。白毛をつたという。

武田らの復讐は城下、あるいは藩士だけでなかつた。六月八日には大田村（常陸太田市）で義商など十人が捕らえられ、これに対して村役人は全員の名で、藩庁に「水戸送りとなった全員を帰してほしい」との嘆願書を提出した。

武田金次郎の復讐

まもなく、江戸と同じように武田らは暗殺を始める。ひどかったのは六月十日。御用召御連署という文書は「十日夜武田勢にて天誅之人」として十三人の名前を記し、そのうち五人は首なしと記録している。いずれも街の夢」という資料は、

武田らの凶行に、中間五郎に調停を命令した。派の藩士らが抗議の声を上げる。近藤義太夫、青島、武田側から三人を処刑し、一方の近藤ら数人、武田勢も乗り込み、藩庁から一カ月もたたないで決着した。武田はそれの武田らの宿では残った、第二次追討軍の先鋒隊員が鉄砲を構えて威嚇した。藩は武田の非を認めたが、武をすれば、厄介者を昇進させて藩内から追い出し

中間派抗議し武田と対立



復讐に燃えた武田金次郎。前列左より2人目（勤皇遺烈伝より）

市川勢の軌跡

▷15◁

市川勢と同様に保守門閥派ながら、行動を共にしなかつた藩士は多い。内藤亦太夫もその一人。

「きのうの夢」は、内藤の藩内の立場を「天狗にもあらず市川等にも服従せず、中間にあつたのが近藤義太夫や内藤、石河幹治郎」と指摘している。

美濃部又三郎の二男として生まれ、二十歳のとき内藤家を継ぐ。家禄は二百石。藩校弘道館の教授など務める。

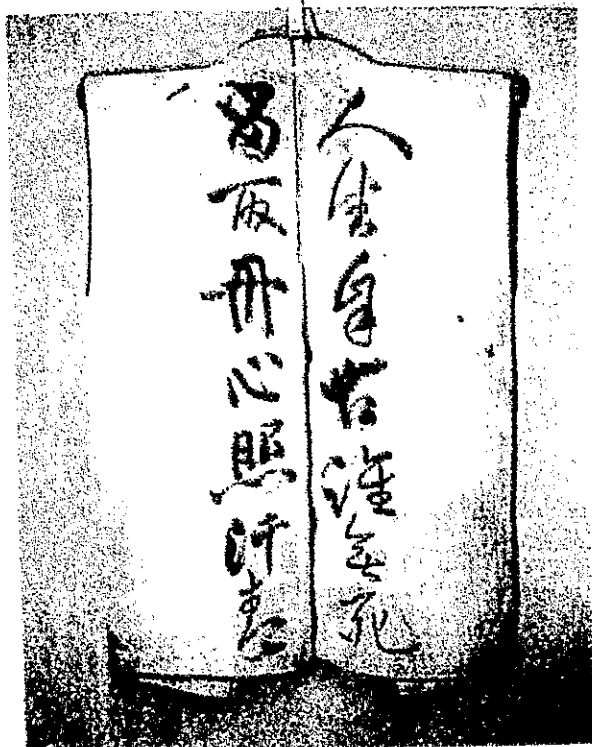
内藤は、武田金次郎が江戸を出て水戸に向かう直前の五月二十日には自宅を離れ、城下に隠れる。その理由は、天狗党が挙兵した際、これを取り締まる立場にいたので

維新後は文科大学教授に

潜伏した内藤

勢のことが凶録にかかりて大死せんにはまきりぬべし」と自らの回顧録に記している。

脱出した内藤は、途中野英臣のグループと合流し、会津藩兵とともに



内藤が身を隠した一関の鈴木家に残る内藤が墨書した陣羽織（写真は小林義忠氏提供）

れる。しかし、水戸藩の追手が迫っているという噂を聞き、若手一関の藩士村まで足を延ばし、下駄職人の鈴木留五郎方に潜伏すること一年余。追及を逃れた。世話になった鈴木家に内藤は、陣羽織を形見として与え、いまに伝わっている。

戊辰戦争が終わった後の明治二年、内藤は住まいを山形に移し、翌年には本名を伏せて山形県庁に奉職する。時代が変わっても変名するほど天狗諸士の争いの遺恨が強く残っていたというわけだ。その後、東京に出て、明治十九年、文科大学（東京大学の前身）教授となる。六十歳だった。その著「徳川十五代史」は、史学界の高い評価を得た。

（毎週木曜日掲載）

市川勢の軌跡

▷16◁

六月に入ると、市川勢 警府は宋戸、松岡藩主らの動きが見えなくなつてに市川三左衛門らを討つくる。資料(戊辰役戦史、出雲崎編年史、会津

七月四日、会津藩の佐川官兵衛率いる朱雀四番隊は六月下旬から連日と十九日に会津崎近辺で戦つたことらしい。

この月、奥羽越列藩同盟が新政府に対抗する政

六月に入ると、市川勢 警府は宋戸、松岡藩主らの動きが見えなくなつてに市川三左衛門らを討つくる。資料(戊辰役戦史、出雲崎編年史、会津

与板城の攻防

劣勢の同盟軍、総退却へ

部に胸壁を築く。その城を襲つ。同日、水戸でと、会津、桑名両藩兵と勢の多数は、翌日には加新政府軍が後方に迫つてきたため、山間部で迎撃することとなる。市川勢は青龍三番士中隊と高石を占拠。二十九日、大総の胸壁を守り、市川隊のた。そのなかには武田金から退却を続ける。市川別行動となり、会津藩に



市川勢が攻めたてた与板城跡

市川勢の軌跡

▷17◁

北越戦争に敗れた同盟軍にあって、市川勢は会津藩の指揮下に入り、新政府軍と戦闘を繰り返した。ながら会津を目指した。

険しい山を越え、会津藩の津川に着いたのは八月

中甸。津川は新潟を目指した三月下旬に通過して以来、五月余ぶりがた。山並みの景色も変わ

一方、市川勢の追討に向けて七月下旬に水戸を出発した武田金次郎らによる第二次追討軍約一千人は、笠間、小山、前橋

率いる新選組などの必死は、なぜか容保に呼び出の防戦にもかかわらず新されて軍議に参加。その政府軍に破られた。連絡席で「うなづいたのも落を受けた会津藩は、軍議主以下、重臣の責任。全

隊長は国家老西郷頼母。西郷は直情型で藩主松平容保と相性が悪く、意見が対立することも多かったという。容保の京

冬坂峠を守備

西郷頼母の配下となる

八月二十一日、会津国新政府軍との戦争にも否境の要衝の一つ、母成峠



会津藩家老西郷頼母の指揮下、市川勢が守りについた冬坂峠

峠から十丁ほど隔たった峠がございまして、其方に加わり」と。黒崎はその後、白虎隊と別れ、銃弾飛び交うなか城下に潜入する。(毎週木曜日掲載)

市川勢の軌跡

▷18◁

冬坂峠を準備した市川で、入城できない家老内勢百五十人は、翌八月二日、藤介右衛門隊を援護する十三日、新政府軍が城下へ向かって進撃している。小田山の山頂に登り、向かって進撃している。敵方の注意を引きつ、部隊と合流し、会津城に、その間に内藤隊は入った。城内には、ほか城した。これで城内の守の市川勢二百人余が埋門、備体制を整えることが可近くの三の丸にあって東能となり、会津藩はあら北隅を守備していた。落主松平容保は、このうち高田彦助ら約二十人に西出丸を守らせた。

会津城攻防

このとき会津城は藩兵の多くが藩境守備についていたため手薄となり、落城の危機にあった。救ったのは市川勢といわれる。押し寄せる敵を撃退、城を守り、藩に感謝された。

八月二十五日、会津城の南側にある南門の外に、糧不足が深刻化。そこで、市川勢と行動を共

落城の危機脱出に貢献

北隅に、三の丸の百八十人余は八幡社から北側、した。

連日の戦闘で城内は食糧が枯渇され、殺された。市川勢のうち朝比奈

家老山本常力以下十数人にし、水戸、銚子と戦戦が捕縛され、殺された。市川勢のうち朝比奈

井野に陣を敷いた。だが、翌日には会津藩隊長佐川官兵衛の命令により、会津藩兵とともに高田に至る。目的は敵と戦うと同時に食糧の確保だった。

(毎週木曜日掲載)



市川勢が守備を固めた会津城の西出丸

市川勢の軌跡

▷19◁

九月十六日、会津藩兵田金次郎らは、また長岡とともに高田から戻った。市川勢の朝比奈隊は永井野村南方の山腰を固め、算隊は東方の高橋川沿いに陣を敷いていた。新政府軍との戦いは、一進一退だったが、やがて会津勢が有利な展開となり、新政府軍は南方の上甲村に敗走した。

そこには水戸藩第二隊追討軍の二小隊がいた。小池千太郎・鳥居沖之允の両隊で、高崎藩兵らが敗走してくると、反撃に転じようとする鳥居隊は上甲村から尾岐窪に進軍。小池隊は分かれて小山から仁王を攻撃する。このとき追討軍の本隊は、塔寺の守備についていた。武

会津藩降伏

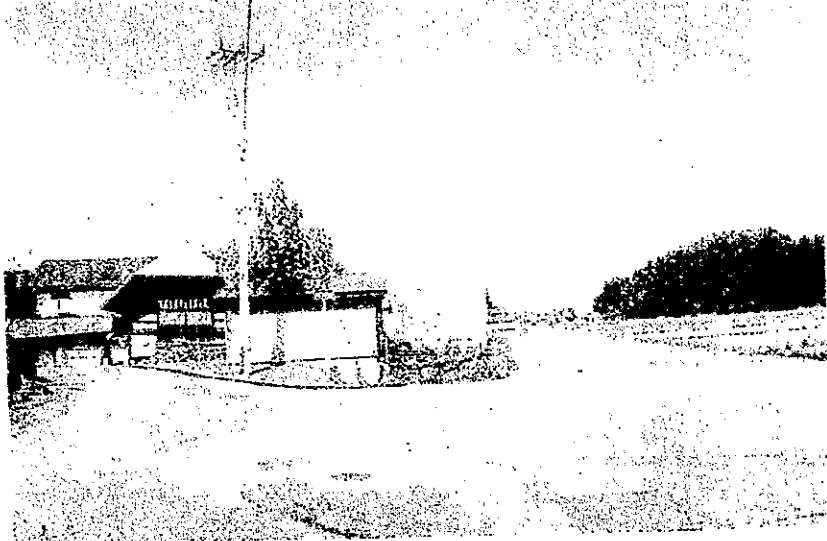
水戸藩追討軍が間近に

の追討軍がすぐ近くに、隊と別れ、会津城に入る。うとして門前払いされた。会津

の追討軍がすぐ近くに、隊と別れ、会津城に入る。うとして門前払いされた。会津

会津藩降伏が田島に伝き場を失った市川勢は、協議の結果、水戸に戻るた。

ことを決め、佐川に別れを告げ、会津藩以外の兵(旧幕府軍、新選組、長岡藩兵など)とともに直ちに水戸に向け出発した。(毎週木曜日掲載)



市川勢と水戸藩追討軍がすれちがった尾岐窪

市川勢の軌跡

<20>

市川勢一行は、九月 一行は約三百人。その二十五日に田島をたつち三十人が宝壽寺に宿と、粟生沢から一氣に陰泊し、残る二百七十人はしい山越えを敢行、会津民家に分宿した。一行の藩領を出て板室に入る。動きは、地元の大田原藩新政府軍の略奪に反発する田島周辺の農民は農民七口未明、大田原、彦隊を組織し、ゲリラ戦を根、阿波の三藩兵五百人展開していた。とくに粟生沢農民隊は優秀で、市川勢の山越えに協力的だった。

片府田の戦い



片府田の宝壽寺の片隅に建つ戦死した市川勢の供養塔

佐良土では黒羽藩が待ち受け、戦闘となったが、夕刻には優勢の市川

会津脱出し水戸目指す

板室から山を下り、百村に宿泊した市川勢が、新政府軍を避けるように高林、石上を経て片府田に到着したのは二十六日夜。近くには常川が流れる平たんな地形に、それまで険しい山間部ばかり通行してきた市川勢は気が緩んだ。

の準備をしていた市川勢にあっては、戦況だが、用者もなく無縁の準備をしていては、激しい不利とみて二時間後には佐良土方面に去った。この戦闘で、市川勢の九人が戦死した。いずれだけ戦った。不意打ちも宝壽寺墓地に埋葬され

ら初めて水戸藩兵と戦う。相手は宮村関門を警護する先手同心頭久米鉄之進率いる藩兵。戦闘は、多勢に無勢、市川勢が勝利する。市川勢は、このあと獄舎を破り、罪人を手勢に加えている。馬頭村に泊まった市川勢は、二十八日は二手に分かれて出発した。多くは水戸を目指すが、一部は小砂から左衛門を経て大子に向かう。水戸に向かった市川勢は、高部から小野河原に至る。那珂川を舟で渡ろうとすると、対岸から鉄砲を撃ち込まれて思うように渡れない。最初に自ら橋をこいで渡ったのは黒崎雄二。砲弾の雨をくぐり抜け無事に渡ると、敵陣に切り込む。水戸藩兵は大砲を置いて逃走した。(毎週木曜掲載)

市川勢の軌跡

>21<

市川勢が水戸を目指していることを水戸藩が知ったのは、市川勢が領内に入る直前だった。

市川勢が水戸を目指していることを水戸藩が知ったのは、市川勢が領内に入る直前だった。馬頭村や小野河原に到着した市川勢は、水戸藩の追討を受け、いずれも少人数のたむけ守れなかった。小野河原を渡った市川勢は、二十九日石塚村

水戸城下に入る



水戸城下での戦闘を前に諸生派重臣の処刑が行われた赤沼の跡

重臣ら40余人が処刑に

あわてた水戸藩は、市川勢が通行しそうな場所に藩兵を配置することとも告した。

(城下町)の守備隊も撃破した。黒崎雄二は「石塚で宿をとるとみせまし」でその実一泊もしませ

怖と緊張が広がり、二十八日から十月一日にかけ、赤沼の獄にあった諸生派の重臣を次々と処刑。家老大野伊内、若年寄近藤儀太夫ら四十余人が斬殺された。(毎週木曜掲載)

市川勢の軌跡

▷22◁

九月二十九日夜、谷中路、左手に銃弾を受けたから城下に侵攻した市川、ため滞り遅れ一人にな

られなかったからこの見、激しい戦闘を繰り広げた方もある。いずれにして、御杉山。急な傾斜地が当

十月一日未明、市川勢、幕府軍は「徳川再興」とは開の声を上げて水戸城、奮いた大旗を押し立てた

水戸城下の戦い

志水隊、城内突入し全滅

市川隊が谷中から本道に出た所で、最後尾にいた側用人秋庄左衛門、勇

由を水戸城下に入ろうと、那珂川に沿った御杉山戦で、市川の長男、主計



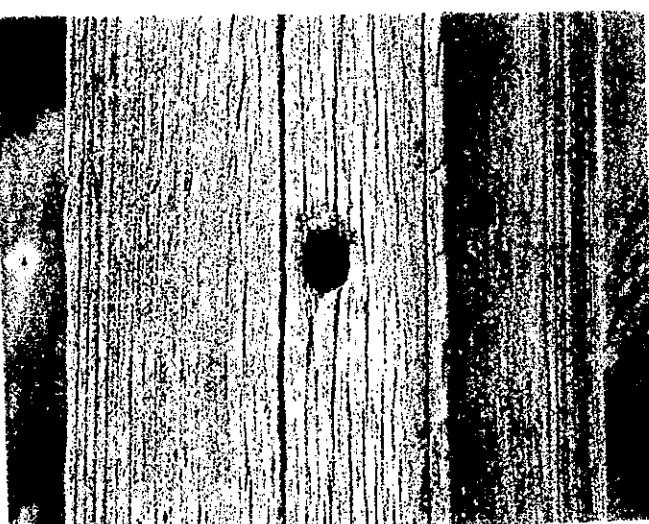
と拒否された志水は、同士十数人を連れて御杉山に居ると、西端の城壁をよじ登り、城内に突入。かなりの藩兵を倒すが、次第に追い詰められ、全員殺された。(毎週木曜日掲載)

市川勢の軌跡

▷23◁

十月一日(新暦十一月十四日)は、朝から快晴、着弾した。市川勢が水戸城を攻撃したのは午前四時ごろ。大手

十月一日未明、市川勢、幕府軍は「徳川再興」とは開の声を上げて水戸城、奮いた大旗を押し立てた



弘道館の正門にはいくつもの銃弾のあとが残っている

弘道館の総力戦

1時間で両軍385人が死傷

城下で戦っていた藩兵らは午前十時ごろには、市川勢がいよいよ城南の柵町柵門から城内に戻り、

十月一日未明、市川勢、幕府軍は「徳川再興」とは開の声を上げて水戸城、奮いた大旗を押し立てた

終わったが、戦死者は市川勢九十人、水戸藩側は八十七人に上った。戦死者は水戸藩百三十人、市川勢は七十八人。捕縛された市川勢は十一人だった。彼らは、後に全員処刑された。(毎週木曜日掲載)

市川勢の軌跡

24

弘道館の激闘で市川は、夜陰に乗じて露ヶ浦勢は同藩から降伏勧告を勢、水戸藩勢とも疲れ果て、十月一日の夜は、ど艘、伝馬船一艘だ。行き

(同)に二艘が着岸。上陸した。そこは高崎藩の領地で、陣屋があった。市川

ちも目立った動きを見せなかつた。山野辺郎に立てこもった市川勢のうち、旧幕府兵と長岡藩兵は、その夜のうちに水戸を離れた。残った市川勢も、戦う余力がなく、翌

水戸から銚子に逃亡

た。銚子に来たのは、そこ考えられる。だが船のこから船で仙台に行き、手配ができず断念、降伏

旧幕府軍ら高崎藩に降伏

森金六郎が銃弾を受けて川勢は、なぜ銚子で降伏考えたからだ。しかし、藩主がすでに降伏したと高崎藩に聞き、自分たちも降伏することとした。旧幕府軍は、銚子から船で大森圭介率いる旧幕府軍のいる仙台を目指した

十月三日夜、玉造で合流した市川勢約百九十人(市)に一艘、隣の松岸村

市川勢の軌跡

25

十月四日夜、松岸から南下した市川勢は、五日断。全軍を本陣に集め、には海の見える漁村飯岡

市川は、寺の周囲には院近くの山中に五人が追人家が多く、戦闘になれ討軍を待ち伏せ、尼子隊は迷惑を掛けると、寺の



市川勢最後の戦闘地となった八日市場市の松山に立つ供養塚

進み、野中村あたりで一泊した。翌六日は、早朝に出発し、椎名、神宮寺、東小笹、下富谷を経

八日市場の戦い①

朝比奈、寛ら戦死し壊滅

元家老は彼らを説得した。隊長の市川は、水戸藩の追手が迫っているとの情報を得ると、この状況

午後一時、勝敗は決した。八日市場での市川勢の戦死三十人、焼死十人、行方不明四十人。朝比奈、寛も討ち死にし、市川勢は壊滅した。(毎週木曜日掲載)

► 26 ◄

八日市場松山の戦いで、松林に渡り、その衣類もこぎっぱりした。新政府軍の兵士たちの尋ねに小屋を造って過ぐす。大木は時々、食事を問を受けたが、「成田参詣に烏山からきた」と答へ、その後どうしただろう。二人は唐辛子売りに

市川（市川市）まで来た。た。

隊長の市川は、白兵戦に突如として東京を屈指する。東京に入

のなか獅子奮迅の戦いぶりをみせたという。しかし、味方が次々と倒されていくなか、生への執着を示した。死んでなるものかと、草場に隠れ、谷津田を走り、戦場を離れる。

市川（市川市）まで来たところ、役人の探索が厳しくなり、大木は高野村に帰った。市川は東京に成功した者もいれば、掃まり、処刑された者もある。千葉では

八日市場の戦い②

八日市場の戦い ②

大木佐内、市川かくまう

戰場から南西方向に一
里ほど行ったところの高
野村がある。市川は、そ
こに住む知人の劍客大木
佐内を訪ねる。右腕に深
手を負った市川は、手当
てを受けたあと、人目に
つかぬよう夜になってか
ら大木宅から湿地を舟に
る。

大木佐内、市

留米藩兵に七人が殺された。五人は大嶺総七郎ら水戸者、あとは守山藩と新撰組だった。豊栄村では傷を負った三人が首をはねられた。また、十月十一日には多古村で多古藩士に一人が捕まり、水戸藩に引き渡され、水戸で処刑された。

十月六日、市川勢に勝塚は激戦地中台にあり、建てたのは中台村の人々

といわれている。
追討軍は、銚子に戻つても豪商宅に抜刀して押し入り、強盗まがいのことをしている。高崎藩記によれば、田中玄蕃など有力者七人と宿泊先の宝満寺から合計一万三千七百両のほか衣類刀剣類を強奪。市川勢の多数の首とともに水戸に持ち帰つた。

(每週木曜日掲載)

市川勢の軌跡

▷ 27 ◁

市川勢は、慶応四年三月から十月（九月八日に以上）。

明治と改元）まで八九月間、北越、会津、水戸、八日市場と約一千キを徒歩で転戦した。

分かれた中には、会津戦争で本隊と連絡がとれなくなり、やむ無く個別に庄内藩に逃れた二十六人いる。同藩は水戸藩

人数は水戸を出発した人がいる。同藩は水戸の引き渡し要求を拒み、時に五百人以上いたとみられるが、最後の戦闘で、八日市場では八十人に減っていた。減員の多くは戦死。確かな資料がないので概数だが、北越

市川勢の構成

消えた隊長伊藤辰之助

日市場で三十人、そのほか片府田、千葉、六子など各地で合わせて五十人ほど。全体で三百人を超える。捕まり、処刑された者は七十人。自刃・病死は二十人。途中、分か

市川三左衛門。また家老。また、隊名として出生派名簿には「行方不市川勢にあつて北越の地

で最も武功を挙げた辰之助は、なぜ会津を目指さなかったのだらう。氣になるところだ。

每週木曜日掲載



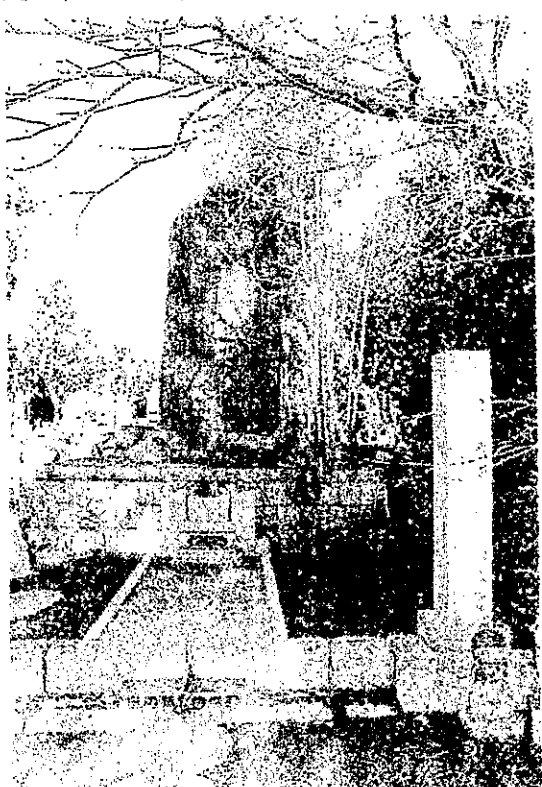
行方不明となつた伊藤辰之助は明治中ごろ、写真の村松（新潟県）で名乗り出たという話がある。



市川三左衛門をかくまった大木佐
内と福善寺に建つ左内の顕彰碑

市川勢の軌跡

▷28◁



水戸市の祇園寺には市川勢を含む諸生派の殉難者名を列記した「恩光無辺」の碑がある

の諱之達は会津で戦ったあゝ函館の五稜郭で戦死した。市川勢では、かにも五稜郭で戦っている者がいるので、全員が水戸を目指したわけではないようだ。薄井の親類には北越で戦死、あるいは自刃している者もいる。

諸生派の代表的存在ながら市川勢に加わらなかった城代家老鈴木石見守の家来のなかには、市川勢とともに戦った者もいる。越後で戦死した鈴木鉄五郎、丸山善次ほか四、五人。

各地で散った一族たち

戦いを支えた人々

水戸藩で家老職を務めた市川勢の幹部は、家族とともに戦死した。市川三左衛門は、長男主計が弘道館の戦いで御杉山に戦死。朝比奈弥太郎は、養子朝貞とともに八日市場で戦死。大森弥三左衛門は会津で戦死、弟の金六郎は銚子で戦死。算助大夫は弟平十郎とともに八日市場で戦死。（助大夫は文獻には戦死とあるが、墓所には明治二十九年没とある）。佐藤図書は越後寺泊で病死、長男主税、四男留男は八日市場で戦死した。主従で戦った者も多い。諸生派の助は越後与板で平介ら従者四人と戦死。井上和次郎も越後馬

に水戸を出るとき、尾玉の獄中で病死した。郷士といえ、佐川の益子に、家族とともに最後まで戦死し、八日市場で戦死した。野村は、市川勢と馬場で戦死した。野村は、市川勢と馬場で戦死した。野村は、市川勢と馬場で戦死した。

る。この言を聞き、金品を奪って野州・栃木県に逃走する。その際、猪名藩隊に加わり、庄内藩兵とともに会津から鶴岡に入っていた。そして、鶴岡城下に近い大山の奥家にかくまわれたが、明治二年以降は不明だ。（毎週水曜掲載）

市川勢の軌跡

▷29◁

平気で、買めがすんでかて処刑された。市川勢の墓所は、長男主計の墓とともに水戸のいたとい、食むる金に乏しさが、武田金次郎の目を惹きつけた。

る百一歳の天寿をまっとうした。幾志は、後日どの原稿が残っている。遺品のなかに辞世の歌もある。幕末から明治にかけて藩内抗争を戦いぬいた市川は、万感の思いを込めて詠んだのだろ

三左衛門の最期

明治2年に逆さ磔で処刑

「君ゆえにすする命はおしまねど思が不忠になるぞ悲しき」（毎週水曜掲載）

十月六日の八日市場での最終戦に敗れ、一人東京に逃れた市川三左衛門は、三女徳が嫁いだ芝三田の宝徳寺に身を寄せ、身元を隠すため久我三左衛門と改名。その後、青山百人町の剣道師範島上源兵衛宅に潜伏した。水戸藩は、市川を行方必死に探し、潜伏先を突き止め、明治二年二月二十六日夜、水戸神勢隊が島上宅で市川を捕縛する。そのときの様子が明治十七年一月と二月の史談会速記録に記されている。答えたのは、天狗党出身の小又慶二郎。

た。島上は、家で縄をかけないでくれとい、市日、上下町を引回し、川を連れてきた。短刀をうえ、長岡の刑場で史上携えて出てきた市川に腰まかれた逆さ磔により処刑された。その寸前に「勝もささず、ずぶぬれで歩たという話がある。時にき、水道橋の入墨門の五十三歳、妻は水戸市の前まで来たとき、市川に祇園寺にある。



市川家の遺品の中には三左衛門の肖像画の写真のガラス原板がある

▷ 30 ◁

亡国から二年と幅がある。述べている言は変わる。

言は変わるが、本が

市川三左衛門の処刑で市川勢は壊滅した。しか
に残った市川勢や諸生
派の人々は、その後をど
う生きたのだろうか。

文が載っている。「中津
原新田の開墾と徒罪人の
使用」だ。そこで、明治
二年から水戸藩が徒罪人
の使用を開始したこと、

新政府の密偵は明治二年七月、水戸の状況を次
 のように報告した。「暮る。

内は混雑を極めている。
主な原因は市川を処刑した
あととも七月ごろまでに
仲間約三百人を処刑した
からだ」。

市川勢のその後

變動という点では天狗派 謫生派の人々が、復讐からすれば一石二鳥三鳥を果たしたのは、明治六の政策であつた訳であるが八十人余、同二十二年が二百六十人余、同二

諸生派の人々が徒罪人として働かされた大子町の新田開墾地跡

罪人として強制労働も

したがって市川勢は、水戸藩の追及におびえながら新時代を生きなければならなかった。そして、彼らは「罪人」とみられていた。

田園藝には、徒罪人百三十人が五十六が村から送

「大子町史研究」第二十号に鷺松四郎さんの論

十人が五十六が村から送り込まれた。小生瀬が十人で一番多い。刑期はまた、「従罪人の使用は経済的側面より政治的側面に重点があつて」と

十五年が三七十人余といふ戸籍が得られ、法的には社会復帰したが、現出て行く者が多かった。美は甘くなかった。水戸黒崎雄二もその一人だっ

た。明治六年一月、二十二歳のときに渡米し、十年後に帰國。史学会のインタビューを受けるのは明治三十九年、五十五歳だった。

▷ 31 ◁

「北島道龍の生涯」と

連載の番外として黒崎雄二について一回追加させていただいた。

黒崎雄二は明治六年一月に横浜から船で渡米し、十七年にヨーロッパから帰国したと史談会速記録の中で断片的に明かしている。

記録を調べた。「渡海人 七年に帰国している。雄明細鑑」「神奈川勤合二が遠記録に残した帰国帳」など当たったが、雄時期と合致。同一人物の二の名前はなかった。密可能性が高い。さらに調査すると、別の文献に北航したのかと思う、外交史料館に尋ねたが、当時

市川の夢を黒崎が実現

黒崎雄二のその後

市川勢は明治元年十月に壊滅し、生き残った人々は、古里で息を潛め、あるいは古里を捨てて隠れるように生きた。そのような敗者ゆえの厳しい環境の中で、雄二はどきどきして渡米できたのだろまか。

の資料は渡航者すべてを戸籍士とあった。これを掲載しているとはいえないで同一人物と確信した。その後、雄二の実家を訪ねたところ、

う。実家に関係資料がな
いか調べさせていたた
ところ、雄三の写真

岩倉貞視らが欧米派遣されて間もない時期に、

次に「黒崎雄二」をイニターネットで検索した。雄二の存在は知っていたが、詳細は不明とい

写真の裏には「黒崎老

に送る 同雄二公敦英一 児つかれば 説は解明さ
千八百七十九年」と墨書 れるかもしれない。
が、二十八歳の雄二が、 言えることは、大將市
ロンドンから大子の母親 川三左衛門が果たせなか
に送った写真だった。雄 った外国に渡るという夢
二は確かに渡航してい を、一兵卒の雄二が実現
した。
しかし、なぜ渡航でき (次城プレスセンター社
たのか、何を目的とした 長・市村眞一) (おわり)



発見された黒崎雄一の写真

のかは分らないまま。

そして、帰国後はどうしたのだろうか。興味は尽きない。雄二のご子孫が見つければ、謎は解明されるかもしれない。

言へるには、大將市川三左衛門が果たせなかつた外国に渡るといふ夢を、一兵卒の雄が実現したといふことだ。

黒山は二の
実家と云はれた
いあうた。